



今泉の善得寺城

吉原といえば、宿場町として知られていますが、戦国時代、今川氏の保護のもとに栄えた善得寺の西側に、寺と並んで、善得寺城というお城があったことをご存知ですか。「城山」(現在の今泉、上和田町附近)といわれる所ですが、今は道路が通り城跡らしさは失なわれています。今回はこの善得寺城を紹介してみました。



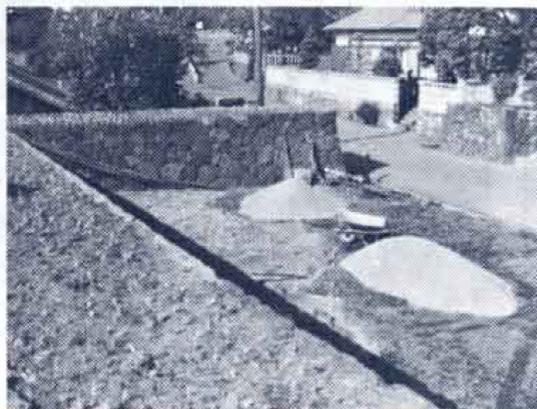
今川氏の拠点

善得寺城は、善得寺が今川氏の官寺となり河東一の大寺として隆盛を誇った頃、寺と並んで築かれたと言われています。

善得寺は、「天寧庵」を起こした大勲策禅師という名僧を開山として今泉へ福王寺を建て、大勲策の死後善得寺と改名しました。

その後、なん度か兵火のために焼かれ、再建されたり、移転(今泉の寺市場や御殿)しました。

善得寺は富士川以東における今川氏の拠点として、また今川氏の軍師である太原雪斎の功による三将会盟



善得寺城跡

(今川義元・武田信玄・北条氏康の三将が盟約を結んだ)の場として知られています。

この善得寺と並んで築かれた善得寺城は、今川氏の軍事的拠点というより岳南の地における今川支配の政治的拠点としての役割が強かったといわれています。

しかし、現在の地形から城の規模構造を推定するのは困難で、その起源や変遷についても不明の点が多いようです。善得寺城も善得寺も戦国の動乱のなかで今川氏の衰退とともに消えていったのでしょうか。

地名の由来

加島



加島村は明治22年3月1日平垣村・松本村・蓼原村・五味島村・森島村・長通村・本市場村・本市場新田・上下横割村・水戸島村・宮下村・柚木村・十兵衛村・森下村・中島村が合併してできた村です。加島という村名は鎌倉時代からこの辺りを加島郷と呼んでいたのが加島村としたものでしょう。加島は島の集りとも、河の中の島だったからともいいます。

郷土の遺跡



東平遺跡の人々
かたい たい
銚 帯



銚帯は、奈良時代から平安時代にかけて使われた、今でいうベルトのことです。律令時代、朝廷は各地に郡を置き、地域の開発に力を入れていました。

このため各地に新しい村が造られ、東平遺跡の様に各地から多くの人々に移り住んでいたようです。この村人達を統括していたのが郡司、と呼ばれる官人でした。銚帯はこの郡司やこれに準ずる官人だけがしめることを許されたベルトで金具の大きさが身分を示すとされています。

東平遺跡の西側の西平第1号墳から銚帯の金具が出土していることから東平遺跡には、役人が住み、この附近のどこかに役人が勤めていた富士郡の郡衙(郡の役所)があり、文化や生活の中心地であったということになります。しかし、残念ながら郡衙の跡は発見されていません。

こちら編集室

いよいよ師走。あわただしい毎日を送られている人が多いのでは……。編集室も広報紙の発行に追われ、あっという間に1年が過ぎてしまいました。次回は新年号となります。年の変わりとともに新しい企画、アイデアを取り入れていきたいと思っています。